

8 章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

8.1.2 土工

8.1.3 配管設置

8.1.4 ハンドホール設置

8章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

1. 適用

河川堤防に埋設する光ケーブル配管工事に適用する。

8.1.2 土工

1. 適用

光ケーブル配管工事の土工に適用する。

2. 数量算出項目

掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、なし。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報		
		単位	数量	備 考
掘削(光ケーブル配管)	土構造	m ³		
埋戻し締固め	土構造	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用
埋設表示シート	B	m		

(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。
2. 埋戻し締固めの土量は、締固め後の土量とする。

8. 1. 3 配管設置

1. 適用

配管及び付属品の設置に適用する。

2. 数量算出項目

配管の設置延長にて算出する。

3. 区分

区分は、設置条数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			
		設置 条数	単位	数量	備 考
配管設置（埋設部）	B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

8. 1. 4 ハンドホール設置

1. 適用

ハンドホール、蓋等の設置に適用する。

2. 数量算出項目

ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

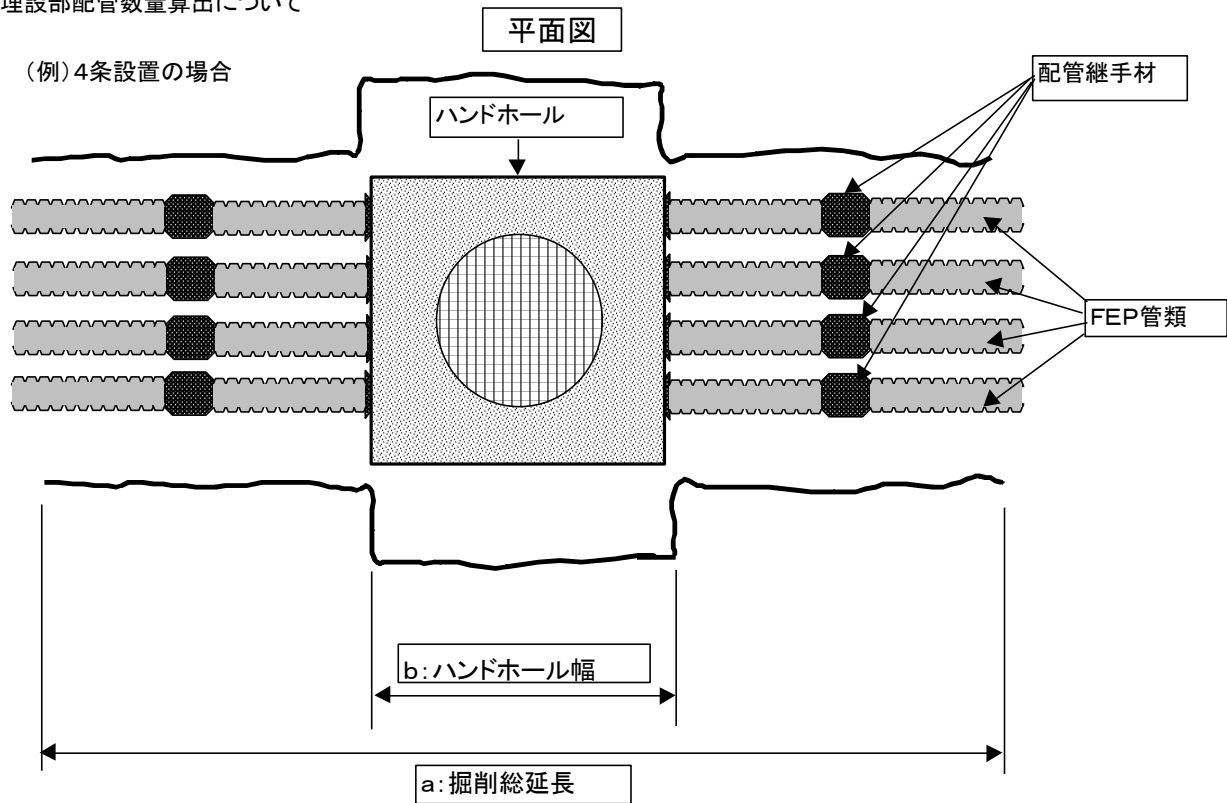
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目 \ 区 分	3次元 モデル	属 性 情 報			
		規格・仕様	単 位	数 量	備 考
ハンドホール	B	○	個		
蓋	B	○	枚		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

[参考図 1]

埋設部配管数量算出について

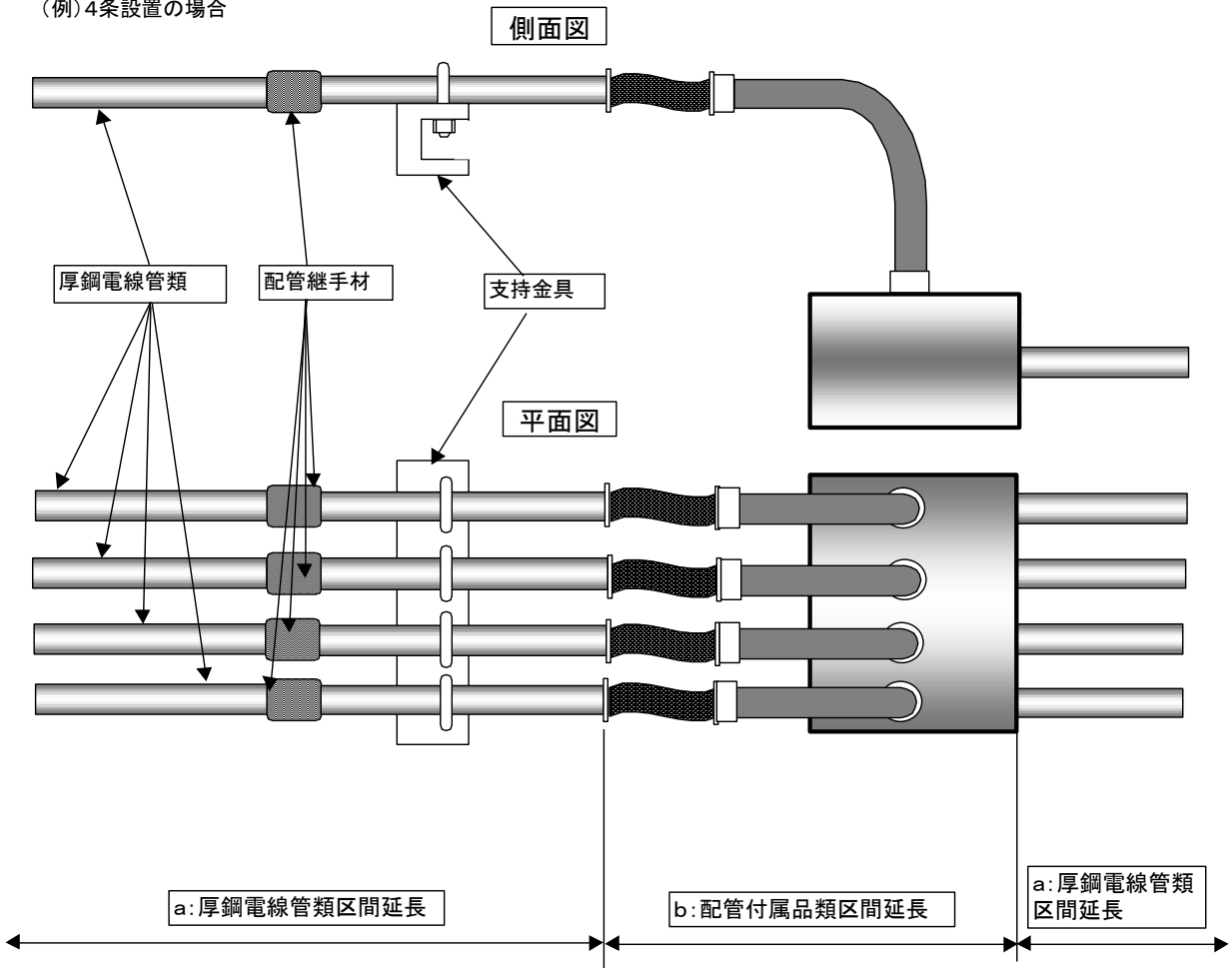


対象延長(掘削延長) = ※ $a - b$ とする。
※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。

配管材料使用量
設計数量 × 条数 ※設計数量 = FEP管類延長
FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) = $a - b$ とする。
諸雑費には、配管継手材を含む。

露出部配管数量算出について

(例)4条設置の場合



対象延長＝※a＋b

※a:厚鋼電線管類区間延長とは
配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。

b: 配管付属品類区間延長とは
配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。

(例)

プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品

配管材料使用量

設計数量×条数 ※設計数量＝a:厚鋼電線管類区間延長

諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。

支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。